

「この人 27」

氏家頼一 89歳 東京都

編集部 俳句を始められたのはいつ頃から？

氏 家 今から十六年前に大病をしまして、療養をしていましたが、暇で何かをしたかったのです。その頃、探鳥会で寺に巣を作って卵を産んだ鴉の観察をしております、長老に「鴉を観る暇があるんだったら、俳句でもしなさい」と声をかけていたのが、俳句をするきっかけになりました。鴉が俳句との縁をつくってくれました。

編集部 滑稽俳句を詠まれるきっかけは？

氏 家 「俳壇」という月刊誌で、八木先生の「微苦笑俳壇」を知り投句しておりましたが、平成二十年度に天賞をいただきました。

編集部 滑稽句をつくるコツを教えてください。

氏 家 特に滑稽句を意識してつくるわけではありません。俳句は元々、俳諧といって軽味があるものなのですが、たくさん俳句を詠ん中で軽味がうまく出たものをピックアップしています。お寺での掃除のご奉仕のときに目にした自然や人との触れ合い、毎日の散歩の中で自然体で詠んでいます。寝ていてふと浮かぶことも多く、忘れないように夜中でも起きてメモしています。

編集部 お声も若々しくいらして、お歳を全く感じませんでした。大変、勉強になりました。

< 代表句 >

さの行のおしまひはそよ春の風 * 「天賞」受賞

別れても未練あるごと花筏

殺鼠剤配る町会子年来る

たの行のおしまひはとよ葦原の国

砂時計途中止まらぬ年の暮